

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和3年2月22日

事業所名 生活支援ネットBe星が岡ステーション

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6			中庭や体育館を利用し、スペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	6			管理者、児童発達支援管理責任者、保育士、児童指導員を適切に配置している。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	6				
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	2		月1回のスタッフ会議や日々の終礼を行い、検討している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	3		アンケートを実施、保護者のニーズを吸い上げることができている。	保護者懇談も年2回(誕生月に合わせて)実施しているため、そこで保護者の意向を汲み取り、改善につなげていく。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	6			ホームページにて公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	4			以前H23年度に一度第三者評価を受審済み。今後も外部評価を検討していく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6				必要に応じて研修に参加、学習会を実施していく。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4	2			誕生月に合わせてアセスメントを行い策定会議にて支援の評価を行い、個別支援計画を作成している。継続して行っていく。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	2	4			現在使用しているアセスメント表はあるが、年齢や障害等によってうまく活用できるものではないため、今後検討していく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	1			活動プログラムはスタッフだけでなく、講師にも立案に携わってもらいながら検討していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	3			季節に合わせたプログラムや参加者の特性に合わせて活動内容を変更し工夫している。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	3	3			平日は講座を通し運動したり、余暇を楽しめるように工夫している。休日はお出かけや買い物など地域に出て、社会性や支払いの練習など支援を行っている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	2	3	1	個別支援計画には個人のADLだけでなく、集団での活動である講座も組み合わせ合わせて作成している。	児童一人ひとりの発達段階・特性に合わせて個別支援計画を作成していく。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している			6	事前にスケジュールを配布し確認を行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6				終礼を行い、その日の振り返り、変更などを確認している。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	2	4			スタッフによって記録の精度に差があるため、支援会議で情報の共有を、記録の改善につなげていく。
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	4	2		半年に1度モニタリング、策定会議を実施している。		
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	1	5				
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6			児童発達管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1		学校からも変更があれば、連絡がきておりうまく調整することができている。	

関係機関や保護者との連携	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		6			現在対象者はいない。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3	3		担当者会議に参加し、スムーズに移行できるように情報共有、相互理解に努めている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6				今年度3名の方が卒業を控えている。懇談や担当者会議を通して、次のステップにうまく繋がるように行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3			必要に応じて研修等に参加していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	4			地域の児童クラブや児童館との交流など現在、課題としている。プールなどは地域の子とも関わりがある。長期休みなど検討していく。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	3	3		協議会や部会(こども連絡会)への参加をしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5	1		連絡帳や送迎の際、ラインでもお子さんの様子をお伝えしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		4	2		現在は行っていない。懇談等でご家庭での悩みをを共有して、情報提供を行っていく。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5	1			利用契約前に適切に説明を行っている。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5	1			保護者からの子育ての悩みはないが、将来のことで悩まれている方がいる。保護者や学校と一緒に考えていく。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3	3		父母会の活動についても今後検討中していく。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5	1		苦情などがあつた際には、早急に対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6			毎月講座のプログラムや活動の様子を載せたものを発送している。	
	35	個人情報に十分注意している	6			個人情報に関しては十分配慮して取り扱っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	3		ローマ字対応、写真・イラスト付きカレンダーを利用し意思疎通に配慮している。	
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3	3	今期はコロナの関係もあり、行事の開催が難しかった。	今後もイベントを通して地域住民に公開する機会を設けていく。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	3			防犯マニュアルがない。保護者への周知はできていない状況。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	3			年1回避難訓練を実施している。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	6				今年度実施。職員・ヘルパー参加している。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6				現在対象者はいない。必要があれば、策定会議を行い、個別支援計画に落とし保護者へ説明・同意を得ます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	1			現在対象者はいない。必要な児童がいる場合、その都度対応していきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	2			ヒヤリハット報告書は共有しているが、事例集の作成は行っていない。